特集

考えを深め、発信し、読みあい、高めあう「学習新聞」とは。

総合的な学習の時間のまとめや社会・国語などの教科、さらには校外学習や行事などのかかわりの中で、学習新聞は、今、多くの学校で制作されています。具体的な指導方法や教育効果などについて、長年新聞づくりの指導にあたってきた東京都練馬区立旭丘小学校の藤平咲雄校長先生（全国新聞教育研究協議会副理事長・東京都小学校新聞教育研究会理事長）にお話を伺いました。

学習新聞づくりが盛ん

――学習新聞は、多くの先生方が取り組んでいますね？

藤平　歴史について学習したことをまとめる歴史新聞などは、以前からつくられていました。現在は、総合的な学習の時間や生活科がきっかけで学習新聞がつくられる機会が増えていますし、インターネットを活用する情報教育の一環としても見直されています。

「新聞」の形式にするのは、自分の課題について調べ、まとめ、表現し、伝えていくうえでこれが適しているということです。

――実際につくられている学習新聞はどうですか？

藤平　「新聞」とは名ばかりでレポートをただ写している、そこに留まっている学習新聞が多く制作されているように見えます。

学習したことを新聞にする意味は、「調べること、まとめること」だけでなく、むしろ「考えを深めること」そしてそれらを「伝えること」にあります。

考えを深めるためには、自分の感想や考えをしっかりと書くことが必要です。紙面には、「感想欄」や「社説欄」などを設けるとよいでしょう。

伝えていくということは、「読み手のことを考える」ということです。読み手を考えながら紙面づくりをするのが新聞として本来の姿です。

読み手のことを考えるとは

――読み手を考えるというのは、具体的にはどのようなことでしょうか？

藤平　読者に読みたいと思わせる、面白いと思わせるために、レイアウトや見出し、絵・写真・イラストを工夫することです。ただレイアウトを初めから自由につくるのは難しいので、あらかじめオーソドックスな枠をつくってやらせ、レイアウトの面白

さを体感させていくほうがいいでしょう。手書きの場合文字の丁寧さも必要です。

また、取材した内容を全部盛り込めない場合には、読み手の興味を引く記事の優先順位をどう選択していくかということもあります。

――そうした新聞づくりの基礎は、どのように指導すればよいでしょうか？

東京都練馬区立旭丘小学校
藤平咲雄校長先生

藤平　新聞づくりの指導には時間がかかりますが、どこかできちんと教えることが大切です。たとえば4年生で基本的なこと、何が大事かを2時間ぐらいかけて教える。そうしておけば、次第に子どもたちが自分で段取りができるようになって、6年生では1時間でできるようになります。

一番やりやすいのは、社会科や総合学習ではないでしょうか？

一人でつくる新聞とグループでつくる新聞と両方取り組むといいですね。

一人でつくる新聞としては、たとえば本校では、夏休みの絵日記でも心に残って楽しかったことを絵と短い言葉で書いて掲示し、みんなに読んでもらうという方法をとっています（写真左）。工夫をすれば小学校低学年でも新聞づくりに取り組むことができます。

一般紙の記事を活用したスクラップ新聞も同じ考えです。自分が興味を持った記事を選んでこんなことを考えた、何を感じたかを発信していく。また、みんなで意見を寄せ合う。小学校高学年や中学校では、朝のスピーチでよく一般紙を活用してやられていますが、スクラップ新聞も学習新聞のひとつですね。（4頁参照）

スクラップ新聞をグループでつくる場合には、そこに互いに学びあってつくるという過程が生まれますが、つくる段取りは本質的には同じです。いずれにしても新聞づくりの基礎をきちんと教えることが大切です。

●学習新聞の分類●

- 総合的な学習に関する新聞
  …環境学習・地域学習・体験学習など
- 教科に関する新聞
  …社会科新聞・国語科新聞・理科新聞
  歴史新聞・生活科新聞
- 行事に関する新聞
  …修学旅行・移動教室・遠足など

●学習新聞のねらい●

調べること・まとめること
＋
伝えること・考えを深めること

小学校１年生での取り組み。読み手に伝えたいことを絵と短い文章で表現。

学ぶ力や国語力、社会性・協調性も身につく

――学習新聞づくりを通してどんな力が身につきますか？

藤平　文章を書いたり絵を描くといった基本的なことから、取材した内容を整理して選ぶ、情報に対してだまされないというか選ぶ力がつく。５Ｗ１Ｈがいつも意識されることで、短い言葉であることを伝える、コメント力もつく。学ぶ力、国語力、論理的な考え方も身につきます。

今は、人と話をしたり意思の疎通ができにくい子どもが増えています。そうした中で取材を通してコミュニケーションを図ったり、自分なりに考えていく新聞づくりは重要な役割を果たします。

――グループ学習ではどうですか？

藤平　学習新聞は、個人でつくる他、２人、３人、４人などグループで記事を書く場合があります。グループでひとつのことをするとなると、いままで学校新聞や学級新聞でやってきたことと重なってきます。協力しあうことで社会性が生まれ、つくりあげる喜びも共有できます。

学校新聞や学級新聞は、チームを組んで、企画し、取材し、みんなで相談し、つくっ

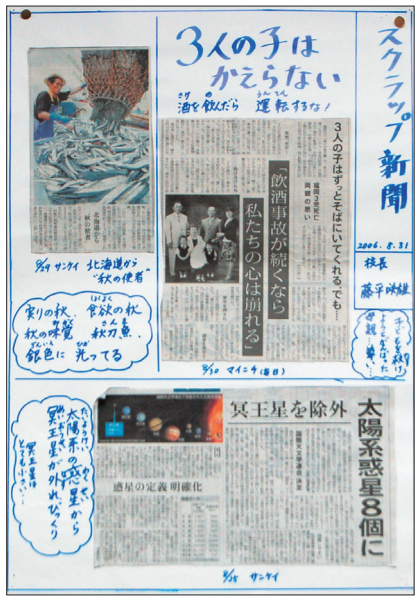
●のぞましい学習新聞とは●

① 新聞づくりの形式を守る。
　題字・日付・号数・発行者名など新聞の形式を整える。
②新聞づくりの基礎を大切に。
　誤字脱字・５Ｗ１Ｈなど。
③ 調べたことをただ書き写すだけでなく、自分の考えをきちんと書く。
④読み手を考えて制作する。
　読みやすく・見やすい新聞づくり。
　見出し、レイアウト、グラフ、写真、イラストなども工夫。
⑤出来上がった新聞は、互いに読みあい意見交換をして考えを深める。

旭丘小学校の廊下に掲示された学習新聞。新聞をつくった後に、互いに読み合うことはよりよい新聞づくりに欠かせない。

東京都荒川区立諏訪台中学校で制作された壁新聞（班で作成）

藤平校長先生がつくったスクラップ新聞と壁新聞。壁新聞は５コマに分けているが、５人で分担すればお互いに学びあいながら制作することができる。



ていく。これは民主教育のひとつでもあり、自分たちの生活を自分たちで考え、発信していくという新聞の原点のようなものがあります。

しかし、時間的な余裕がないなどの理由から組織的にやれる学校が徐々に少なくなってきています。学習新聞づくりを通してそうしたことを継承していって欲しいと思います。

つくった後は「読み合う」ことが大切

――学習新聞を制作した後はどのような取り組みが必要ですか？

藤平　新聞ができたら先生に提出して終了というのでは、学習活動として不十分です。読み手によく伝わったかを知ることは、なかなか難しいことですが、つくった後にどんな感想をもったか、意見のキャッチボールをする。新聞づくりの時間のうち、意見交換の時間もきちんととっておきたいものです。それがよりよい新聞をつくることになります。

運動会が終わって、新聞をつくる。やった後どうだったか、みんなはどうだったかということも学習ですね。たとえば社会科見学の新聞でも、自分の目のつけどころと他の子の目のつけどころが違うことに気づく。そうしたことも大切です。

印刷して配布したり、掲示したりして学習新聞を十分に活用して欲しいと思います。

◆新聞づくりに役立つ情報は

理想教育財団のホームページ
(http://www.riso-ef.or.jp/)

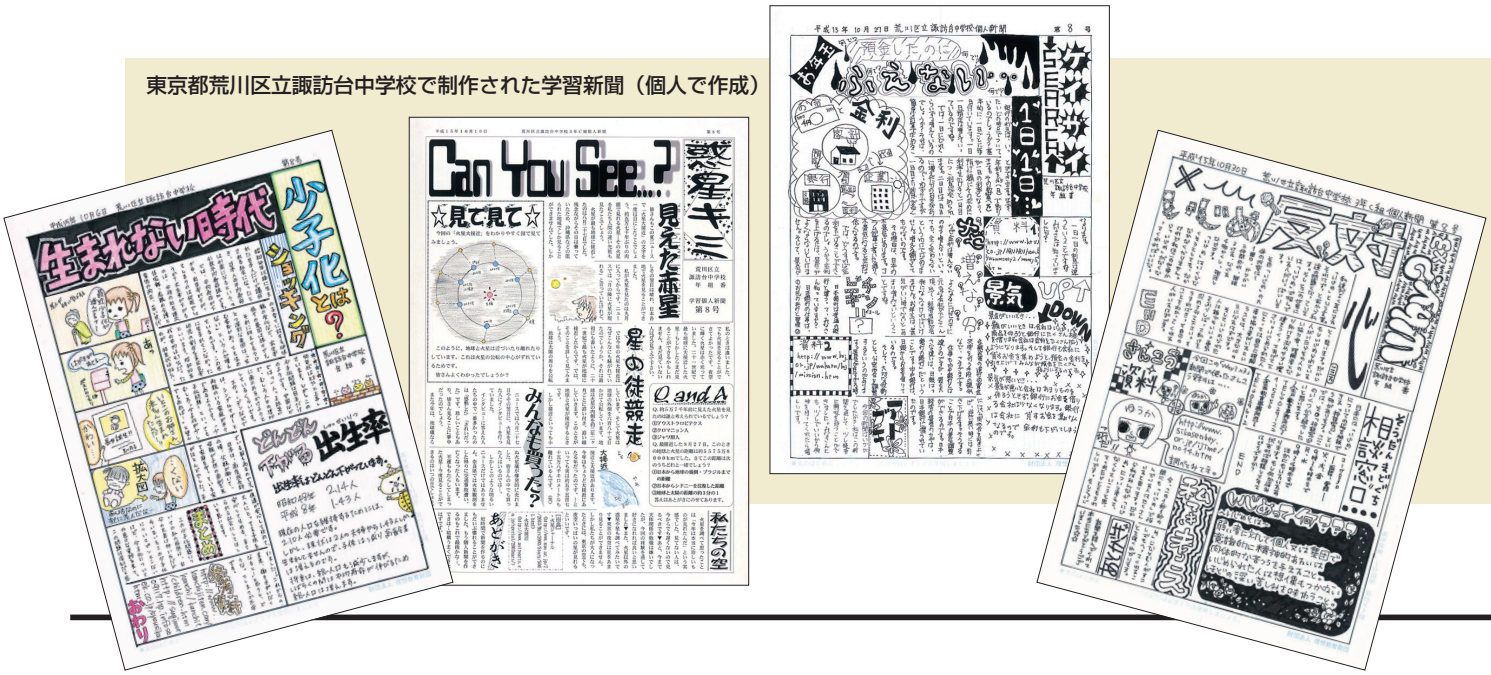
「新聞入門ナビ」のコーナーでは、新聞づくりの基礎知識や実践報告など新聞づくりに役立つ情報を掲載しています。

●新聞原稿用紙の申込みも受け付けています。

◆PRESENT

「たのしい新聞づくり」
(編集:全国新聞教育研究協議会
発行:理想教育財団)

学校新聞・学級新聞をはじめ、学習新聞についても小学校・中学校別に実際の作品を交えながら紹介しています。

●ご希望の先生方に差し上げています。申込み方法は、上記財団ホームページをご覧ください。

東京都荒川区立諏訪台中学校で制作された学習新聞（個人で作成）